

No.	実施回	意見内容	対応の考え方	計画への反映の考え方
1	1	令和5年度に施設利用者向けアンケートを予定されているが、スポーツ実施率の向上のためには、施設を利用していない方を対象にした一般区民対象のアンケートも必要ではないか。	予算も含めアンケート設計について検討する。	令和5年4月に施設を利用していない方も含めた区民アンケートを実施した。
2	1	マインドスポーツ・eスポーツも含め、スポーツの捉え方・範囲によってスポーツ実施率は影響を受けるのではないか。	eスポーツも含めてスポーツの定義・範囲を検討する。	eスポーツについては、国や都の動向を注視していく。
3	1	スポーツ施設のバリアフリー化について、車いす競技者のスポーツ実施環境の調査・把握が必要でないか。	障害者のスポーツ実施環境について調査・把握を行う。	－
4	1	障害者に対するスポーツ振興施策が進んでおり、今後の展開が期待されるのではないか。	推進の要因を分析して施策に反映する。	ユニバーサルスポーツを推進する施策に取り組んでいく。
5	1	総合型地域スポーツ・文化クラブの会員数は横ばいであり、eスポーツなどの新たな活動内容も含め今後検討していく必要がある。	eスポーツへの関心も含めて調査・検討する。	区民アンケートにて、eスポーツの実施状況や活用方法に関する調査を実施。
6	1	スポーツ実施率について、国・都の定義の違いの確認した上で水準を合わせる必要があるのではないか。また、「みる」「ささえる」に関連した目標値を設定できないか。	実施率の定義の確認を行う。また、成果指標の設定について、実施率以外にも検討する。	スポーツ実施率以外の成果指標も各基本目標ごとに設定する。
7	1	スポーツ観戦はQOLに貢献するものであり、大学・学校スポーツも含めて観戦機会の多様化を検討できないか。	スポーツ施設以外での観戦機会提供についても反映する。	－
8	1	プロチーム・選手の活躍も目立っており、観戦機会提供に寄与するのではないか。また、積極的な告知や支援などを検討してはどうか。	連携について検討していく。	施策として、試合招待イベントの開催など、観戦機会の拡充に取り組む。
9	1	パラスポーツは健常者も障害者も共に取り組めるユニバーサルスポーツであることを意識してはどうか。	健常者もともにできるスポーツとして発信・施策検討していく。	ユニバーサルスポーツを推進する施策に取り組んでいく。
10	1	家族でのスポーツ参加促進が、障害の有無を問わず、子どものスポーツ実施につながるのではないか。	家族・保護者をターゲットとした施策を検討する。	親子をターゲットとした施策を推進していく。
11	1	キャンプや温浴などの民間リクリエーション施設の機能もスポーツ施設に取り込んではどうか。	スポーツ施設の多機能化について検討する。	－
12	1	スポーツ実施率の低い若年単身世帯を対象とした施策として、深夜利用可能な温浴・トレーニング施設を整備してはどうか。	スポーツ施設の多機能化について検討する。	スポーツ施設の機能充実に取り組んでいく。
13	1	「多様な主体におけるスポーツの機会創出」は、特にDX・デジタル活用の視点で推進できるのではないか。それにより、スポーツに対する意欲はあるものの実施できていない層など、多様なニーズを受け止めていく必要があるのではないか。	DX・デジタル活用分野での施策・連携を検討する。	－
14	1	スポーツ実施には教育が重要である。子どもの頃から良い教育を受けていれば、自ずとスポーツを実施するようになるのではないか。	子どもたちのスポーツへのかかわりの多様化について施策への反映を検討する。	子どもがスポーツに親しめるきっかけを作れるような施策を進めていく。

No.	実施回	意見内容	対応の考え方	計画への反映の考え方
15	1	学校体育ではオリパラの影響もあり、ダンス、アーバンスポーツも含めて運動・スポーツに親しむ子どもが増えており、レガシー教育、ユニバーサルスポーツの観点が重要ではないか。また、ジェンダー平等など生涯スポーツの観点も重要ではないか。	子どもたちのスポーツへのかかわりの多様化について施策への反映を検討する。	幼稚園・小中学校へトップアスリートを派遣するなど、東京2020大会レガシーの取組みを継続するとともに、ユニバーサルスポーツを推進する施策にも取り組んでいく。
16	1	eスポーツに相当する活動は多くの子どもに浸透している。どこからがスポーツなのかは難しいが、デジタル技術を活用した取組みは有効ではないか。	子どもたちのスポーツへのかかわりの多様化について施策への反映を検討する。	—
17	1	全国で活躍する部活動種目に加えて、「ゆる部活」「軽スポーツ部」も広まっている。障害のある子どもの参加も含めて施策に反映できるのではないか。	子どもたちのスポーツへのかかわりの多様化について施策への反映を検討する。	ユニバーサルスポーツを推進する施策に取り組んでいく。
18	1	女性、子育て世帯・勤労世帯などのターゲットを絞ったスポーツ実施率向上のため、特に情報提供に課題があるのではないか。	家族・保護者をターゲットとした施策を検討する。	親子をターゲットとした施策を推進するとともに、スポーツに関する情報提供・発信を充実させていく。
19	1	昨年度の子どもの体力調査によると、パソコン・スマホ画面を一定時間見ている子どものほうが体力は高く、ライフスタイルは変化しているのではないか。	子どもたちのスポーツへのかかわりの多様化について施策への反映を検討する。	—
20	1	学校教育だけでなく、家庭・保護者世代にスポーツの価値を訴求することも効果的ではないか。	家族・保護者をターゲットとした施策を検討する。	親子をターゲットとした施策を推進するとともに、スポーツに関する情報提供・発信を充実させていく。
21	2	現行計画におけるスポーツの定義には「健康の維持増進」という表現があるが、「心身の健康」等の表現により、心の健康にも言及してはどうか。	心身の健康への言及を検討する。	施策として心身の健康づくりの促進に取り組む。
22	2	スポーツの定義はシンプルなものとして、備考のような形でスポーツの捉え方を併記し、マインドスポーツやeスポーツなどにも言及しておいた方がよいのではないか。	スポーツの捉え方や、マインドスポーツ・eスポーツの記載方法を検討する。	eスポーツについては、国や都の動向を注視していく。
23	2	スポーツの定義について、心身の健康につなげるという観点から、「意識的に行う～」よりも「意図的に行う～」という表現の方が適切ではないか。	ご指摘を踏まえて表現方法を検討する。	表現方法を見直し、反映を行った。
24	2	スポーツの捉え方として、「幼児の運動」という表現が出てくるが、「幼児の遊び・運動」という表現の方が適切ではないか。	ご指摘を踏まえて表現方法を検討する。	表現方法を見直し、反映を行った。

No.	実施回	意見内容	対応の考え方	計画への反映の考え方
25	2	「する」「みる」「ささえる」は重なり合うものであり、分断して考えられると違和感がある。「色々な方法で関わる人を増やす」と考える必要があるのではないか。	「する」「みる」「ささえる」それぞれの要素同士の関わりを捉え、色々な形でスポーツに関わる人を増やせる施策を検討する。	「する」、「みる」、「ささえる」それぞれの要素同士の関わりを捉え、施策体系に反映を行った。
26	2	スポーツの捉え方として、「多様性に応じたスポーツ」や「ユニバーサルスポーツ」に言及した方が良いのではないかと。	ご指摘を踏まえて記載方法を検討する。	基本目標の説明文に反映を行った。
27	2	スポーツの捉え方として、「鬼ごっこなどの遊びを含む」などと付記しても良いのではないかと。	スポーツの捉え方として「鬼ごっこなどの遊び」について付記を検討する。	スポーツの捉え方を見直し、反映を行った。
28	2	基本理念はありたい姿を示すもので最も重要である。区民向けワークショップを開催したり公募したりすることで、色々な方の意見を伺って作られるべきではないかと。	区民ワークショップを開催し、意見を集約する。	令和5年5月に区民ワークショップを実施し、意見を集約した。
29	2	基本理念のいつでも・どこでも・だれでも・いつまでも（IDDI）は、基本理念を下支えする普遍性の高い概念であり、変更する必要はないのではないかと。	いつでも・どこでも・だれでも・いつまでも（IDDI）の概念は今後も継続する方向で検討する。	いつでも・どこでも・だれでも・いつまでも（IDDI）の概念は、基本理念を下支えするものとして継続する。
30	2	「世田谷区はスポーツが盛んだと思う区民の割合」は評価が困難である。イベントや活動に自身がどれくらい参加したかという視点で指標を設定する必要があるのではないかと。	アウトカム指標として適切な指標を検討する。	アウトカム指標として、「世田谷区のスポーツが地域の活性化に役立っていると思う区民の割合」を設定する。
31	2	基本目標に基づいて指標が設定されるべきであり、最終的にアウトカム指標で評価することは良いが、そこに至るまでのプロセスを把握するため、アウトプット指標も抑えなければならないのではないかと。	取組み・事業についてはアウトプット指標等で進捗管理する。	－
32	2	基本目標は、健康寿命の延伸、医療費の削減などにも踏み込むことができるのではないかと。スポーツは、区民の健康、人とのつながり、まちの活性化に貢献する手段であると区民に呼び掛けられると良いのではないかと。	目標とする場合には成果指標と紐づけて進捗管理する必要があるため、測定の観点からも検討する。また、区民へ呼びかけられるような内容を検討する。	スポーツを通じ、区民の健康、人とのつながり、まちの活性化に貢献できるものとして、基本目標を設定する。
33	2	基本理念は、IDDIの前に、「豊かな心身を育む」等を入れた方が良いのではないかと。	ご指摘を踏まえて検討する。	「豊かな心身を育む」想いも込めて、「スポーツで元気あふれる世田谷」として基本理念を設定する。
34	2	基本目標の「共生社会の実現」においては、世代の違いや人種の違いも含めて記載いただいた方が良いのではないかと。	ご指摘を踏まえて検討する。	基本目標を見直し、反映を行った。
35	2	スポーツ施設の整備において、スポーツをする人を増やすという点では、多目的で使える場所を増やすことが重要ではないかと。	スポーツ施設の整備のあり方について検討する。	多目的に利用可能な誰もが使いやすいスポーツ施設の整備を進める。

No.	実施回	意見内容	対応の考え方	計画への反映の考え方
36	2	スポーツ施設の整備においては、DXの推進やPFIの活用に言及すべきではないか。	ご指摘を踏まえて検討する。	—
37	2	スポーツ施設の整備について、何を目的として行うかにより施策が違うので、目的を明確にすべきではないか。	ご指摘を踏まえて検討する。	—
38	2	スポーツ施設の整備においては、まちづくりや、地域活性化のためのイベント企画などといった観点の施設の利用にも言及できないか。	ご指摘を踏まえて検討する。	—
39	3	スポーツは競うものであるとは限らないため、本計画におけるスポーツの範囲における「マインドスポーツやeスポーツにも、互いに競い高めあうスポーツの要素が含まれ、」という表現は、「競い」という表現を削除すべきではないか。	ご指摘を踏まえ、表現方法を検討する。	表現方法を見直し、反映を行った。
40	3	本計画におけるスポーツの範囲における「スポーツの多様性」という表現は、「多様なスポーツ・運動」等の表現の方が良いのではないか。	ご指摘を踏まえ、表現方法を検討する。	表現方法を見直し、反映を行った。
41	3	eスポーツはスポーツゲームに過ぎないとの見方もある。ネガティブな側面も多く見てきており、スポーツとして定義するのは時期尚早ではないか。	eスポーツについては、国や都の動向を注視していく。	eスポーツについては、国や都の動向を注視していく。
42	3	マインドスポーツは古くからIOCの認定を受けており、世界標準からしても、これらをスポーツから除外すべきではないのではないかと。世田谷区として、心身の健康を目指すところに重点を置いた方が良いのではないかと。	マインドスポーツを多様なスポーツの形態一つとしていく。	—
43	3	多様なスポーツの在り方は認める必要があるが、世田谷区が考える運動やスポーツは、身体活動を伴うものと理解した方が良いのではないかと。	運動やスポーツは身体活動を伴うものを基本としつつ、多様なスポーツの形態を考慮し、範囲やあり方を検討していく。	運動やスポーツは身体活動を伴うものを基本とする。
44	3	eスポーツを捉えることで、資金調達につなげられる可能性がある。一方、現行のアンケート調査においてはeスポーツをスポーツに含めていないため、整合性が取れなくなる懸念がある。注視していくという表現に留めることではどうか。	ご指摘を踏まえ、表現を検討する。	ご指摘を踏まえ、反映を行った。
45	3	「多様なスポーツ・運動」等の表現を用い、マインドスポーツやeスポーツに係る文言は広く残し、国や都の動向を注視していくこととしてはどうか。	ご指摘を踏まえ、表現を検討する。	ご指摘を踏まえ、反映を行った。
46	3	「自転車利用をスポーツに位置付けます」は「自転車利用もスポーツに位置付けます」、「ペットの散歩などを位置付けます」は「ペットの散歩などもスポーツに位置付けます」ではないかと。	ご指摘を踏まえて、表現方法を検討する。	ご指摘を踏まえ、反映を行った。
47	3	区として、高齢化対策や医療費削減のためにも身体を動かすことを推奨するようなメッセージを入れることもできるのではないかと。自分の健康は自分で守るということを打ち出しても良いのではないかと。	ご指摘を踏まえて、表現方法を検討する。	基本目標1で健康づくりや生きがいに言及しており、そこに包含したものとして考えていく。
48	3	「健康づくりや生きがいを創出する」というところから自らの健康増進には触れているため、医療費削減等と取って打ち出す必要はないのではないかと。	ご指摘を踏まえて、表現方法を検討する。	基本目標1で健康づくりや生きがいに言及しており、そこに包含したものとして考えていく。

No.	実施回	意見内容	対応の考え方	計画への反映の考え方
49	3	基本目標1の成果指標には「週3回以上スポーツする区民の割合」も入れ てはどうか。	区民意識調査の際は、週3回以上のスポーツ実施率の設問も継続し、推移を把握してい く。基本目標の成果指標としては、週1回以上のスポーツ実施率として設定する。	成果指標は週1回以上のスポー ツ実施率を設定する。
50	3	「スポーツを大切に感じる区民の割合」ではなく、直接的に「スポーツが 生活の質を向上につながっていると感じる区民の割合」とすればよいので はないか。	ご指摘を踏まえ、表現方法を検討する。	成果指標として反映を行った。
51	3	スポーツ観戦率は、現地でもそうでなくても、スポーツに関心を持って観 る人の割合を取る必要があるだろう。頻度としては月に1回以上などとし て調査してはどうか。	調査項目及び成果指標として検討する。	—
52	3	基本目標1の成果指標に医療費の削減や健康寿命の延伸を位置づけられな いか。	医学的な領域など、様々な要素が含まれることから、成果指標としてとして定めるのは困 難であるとする。	—
53	3	基本目標3の成果指標となっている「1年間にスポーツを支える活動を 行った区民の割合」は基本目標1に入るのではないか。	スポーツを支える活動については、部活動の地域移行や地域の活性化の要素としても考え られることから、基本目標の3番に含める方向で検討する。	「1年間にスポーツを支える活 動を行った区民の割合」は基本 目標3に分類を行う。
54	3	基本目標3の柱にはスポーツによる経済効果やボランティア、専門家育成 などに係る成果指標が位置づけられるのではないか。	ボランティアなど、1年間にスポーツを支える活動を行った区民の割合を設定する方向で 検討する。	ボランティアなど、1年間にス ポーツを支える活動を行った区 民の割合を設定する。
55	3	「地域のつながりにスポーツが役立っていると思う区民の割合」は、「ス ポーツを通じて新しい人間関係が形成された区民の割合」等としてはどう か。	ご指摘を踏まえ、表現方法を検討する。	成果指標を見直し、「1年間に スポーツを通じて新しい交流が 生まれた区民の割合」として設 定する。
56	3	部活動の地域移行は今後さらなる検討が必要である。施策体系の中でも位 置づけるべきではないか。体育系の大学との連携なども推進できるのでは ないか。	課題または施策等の内容に反映する。	施策体系において、地域スポー ツ団体との連携を位置づけてい く。
57	3	スポーツツーリズムによる地域産業の振興を位置づけるべきではないか。 ターゲットを絞った収益性のあるサービス展開等もできるのではないか。	ご指摘を踏まえ、施策展開を検討する。	スポーツの大会・イベントを通 じた地域振興として、来訪者も ターゲットにした施策を位置づ けていく。
58	3	スポーツは無償ではなく対価を支払うという文化も必要であり、財源を捻 出するという観点での施策が必要ではないか。資金、施設、人材を確保す るため、企業との連携等も考えられる。	ご指摘を踏まえ、施策展開を検討する。	—
59	3	学校開放のハードルが高いが、もっと開かれた形をとった方が良いのでは ないか。	担当所管と連携していく。	—